

二二面記事

あんなに早く来た人って、みんち  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに  
あんなにとどろいたのて、あんなに

中松支金 黒い  
だれでも早い者勝!



MT

ロッキード



金の時の「落穂拾い」

注  
ミレーの署名あり



強きを助け弱きをくじく



無縁仏を解剖するな

# 読書ノート

## 「タコ部屋一代」の二つ、その他

前に「土工・玉吉」という本については紹介した。これはそのつづきで、北海道のタコ部屋を語りかけた意田まささんの体験記である。

同じ北海道のタコ部屋者の記録としては、松田トシネルという本があった。これも前に紹介したが、意田さんの本は、あくまでも自分の自身の体験から書かれていく点が、くわしく調べるものにしては「ヤマトンネル」とはちがう。

小池まささん、といつのが、松田トシネルの著者で、その本はさんに対して年礼を贈すことになうけれど、やはり十分な体験の記録である意田さんの、前の「土工・玉吉」でさんとの「タコ部屋一代」のことがよくわかった。

たといはの。小池さんは「松田トシネル」のなかで、タ

「タコ部屋」のことはまた行く」と話、た体験者の言葉に、一利のうらウエを見せている。それは世間一般の生活もの感じるところは無理のないことだ。また行く」と言った人にしても、イキガリでそのま、たというところを多分あはすた。この意田さんの本では、また行く」とか行かないとかの言葉ではなく、歴史にいまでは物もつかないとなきついで時代力まがく、タコ部屋を圧きたまわることが、あつたりと記録されていくのである。

あつたりと、といつのはカンタンにのみ、ではない。そうではなくて、意味とか音韻とか喉口とか非人間的とかの、いろいろの形勢をまわても足りない現象が、つらりと記録されているというところだ。つまり、言葉やら現象やら、あらゆる色づきで書かれていない。

だから意田さんの本は、あつたりとくつらながら、実はスゴイ本だ。

よせばいいのは金を借りて、オマンコみとつて行つて、

こんな噂が流れてきている。

あなたのこと前説取らなくてともなうあるだろう

そして、このいつか来るのを心付いたか、たまたま

時力も増一から、夕コ評屋までには「歌仙だ」

歌仙傳でぼろぼろたどった。

どこもなくおれなくみかまって、その力底に思

ふさいたまたえられたとけきえなれたらうか

それにしてた、と思ふことかある。

「土工、王舌」が出ると、歌仙トシキルにだ

出て、こんな夕コ評屋一介しもなで、ほか

に私たちの「歌仙考」を、と本になり、その

が大防地といふのも後に書かれてきた字の

記号だ、山谷では樺太だ、横濱コトブ

キ郎では野本三三さんが、それそれの立場で

本を出している。

世のなかの何が、こうした記号、語彙を扱

考としていろいろか。それは、いま取りてきた本

のうち二冊に私りる語彙のまはを記していろいろ

だが、出所がどうも他のなかからしつたな特効

としてこんな語彙かたをこころみこと、新語力

生れてきた語彙、所因がどうもわがことだ

雑誌には、いまあると書いていろいろ、別冊でま

きつて一冊二巻に、水崎山崎といふ、その水

く、これは足利、高田さんより少しあさし

目的期が夕コ評屋の集録を記してつけてきてま

とけ。

(216)

### 笠ヶ崎ニユース

笠ヶ崎、尾崎、東京新橋の道路は張はバチ

ソコカ一ののれ日、旧トビ夕本通り、川入口、

細き道を運んだ。本通り、の改装された、

ろと、バキノコネ、司馬にフキ石が並んでい

る。が、実は、蓋がつけたりとられろ予定に入

てろのれた、とらけるまらちのウチ。たけと

庭のきでも同じこと考えてるだろう。

素屋、店、むいかし、ライズなど知られて

た、サソのたむのき屋が、新しくキ

打ちつと、屋を出た。

倉屋は改装、瓦、葺、瓦、の、坂、と、い、今、

た、か、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

御、持、り、屋、は、ま、だ、も、つ、て、ろ、と、ま、ま、

が、フ、ラ、ン、ク、だ、た、た、た、た、た、た、た、た、

た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、

た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、

た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、